



第4回

森に生きる

考え方

江本守男さんや林業をやっている筆者の友人が、自然の中で体験したこと、考えたことをまとめてみましょう。

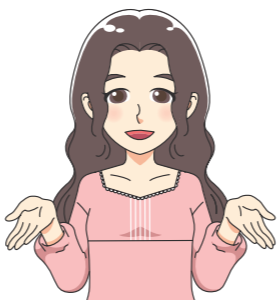
●江本守男さん

- ・「理想郷」をつくろうと、霧降高原に開たくにはいる。
 - ・しだいに、動物に畑をあらされるようになる。
- 《理由》動物の食べ物になる実や葉をつける山の自然林がたくさん切られたから。

←それでも

- ・江本さんは、動物をころそうとは考えなかった。
 - ・人も自然のなかで調和して生きなければならぬ。
 - ・理想郷とは、ゆたかな自然のあるところだ。
- 林業をやっている友人
- ・木のなえや皮をシカに食べられてしまう。
- 「自然を守らなければならぬのは、よくわかるんだけどなあ。」

江本さんは、動物は生きるために畑をあらすしかないことをわかっていて、悪いことをしているわけではない動物たちをころそうとは思わないのね。



問三

まずは、——③のあとに注目します。

いちばんむだなのは、人間

←だから

むだなそんざいならぬいふこと、

人も自然のなかで調和して生きなければならない。

人以外の動物は、自然のなかで調和している。

「人も」とあることに注意しましょう。「人も自然のなかで調和して生きなければならない」ということは、「人」以外の動物たちは、みな自然のなかで調和して生きているということです。そこにむだなそんざいなどありません。

もし、人間が、自分たちのことだけを考えて勝手に生きようすれば、調和をみだすことになります。調和せず、自分勝手に生きるような、自然のなかでむだなそんざいになってはいけないと言っているのです。

答えは、「調和」ですね。

問一

「畑をあらす」という言葉を手がかりにしましょう。



ラインを引こう

「エブリスタディ」第4回の問題文の大事なところ「ラインを引こう」。

21〜22行目

山にすむ動物が畑をあらすようになつたのは、山の自然林がたくさん切られたからです。

山の「自然林がたくさん切られた」ことで、動物たちは、木の実や葉を食べられなくなってしまいました。だから、畑にあるものを食べるしかなくなってしまったのですね。

自然林を切ったあとに人間が植えたヒノキやマツでは、動物たちの食べ物にならなかったんだね。



問二

12行目から、江本さんの考えが説明されています。

草も木も、わたしたちには見えないび生物も、虫も魚も鳥も、もちろんサルもシカもクマも、それぞれにいっしょうけんめい生きています。おなじように、人も生きなければなりません。

江本さんは、人間が野菜をつくらせて食べるために畑を守ろうとするのおなじように、動物たちが畑にある植物を食べようとするのは、「生きる」ためにやっていることであって、あたり前だと考えているのです。

問四

すぐ前の内容をたしかめましょう。

江本さんが開たくにはいったのも、動物たちの生活空間をうばったことなのです。

もちろん、江本さんは、そのことをよく知っていました。

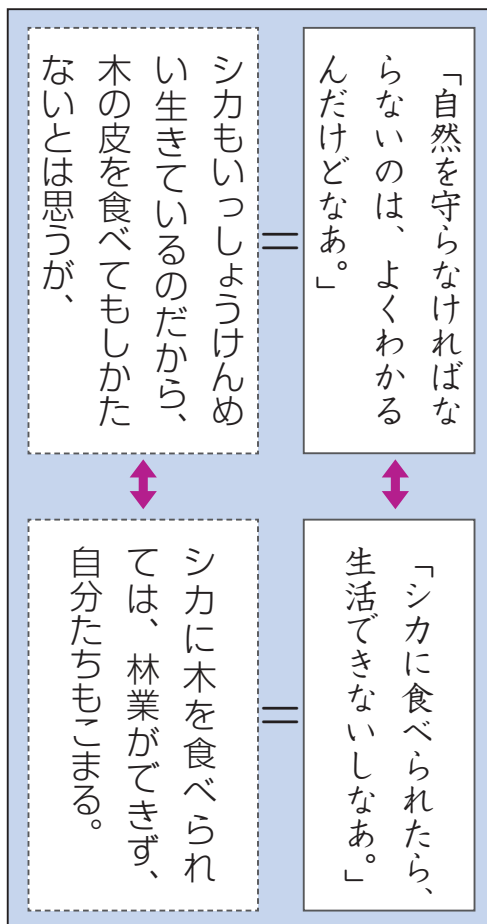
問三で見たように、江本さんは、「人も自然のなかで調和して生きなければならない」と言っています。しかし、その江本さん自身も、実は動物たちの生活空間をうばってしまっていました。「山に開たくにはいったこと」がげんいんです。江本さんは、「山に開たくにはいったことで、動物たちの生活空間をうばってしまった」ということを自分でもよくわかっているのです。だからこそ、調和を大切にしたいと思っっているのですね。

ココが大切!

「この」や「その」が指している内容は、答えをあてはめてみて意味が通じるかたしかめてみましょう。

問五 「自然を守らなければならないのは、よくわかるんだけどなあ。」と言っていることに注目しましょう。このあとには、反対の気持ちがかくれていると考えられますね。36〜39行目の言葉にも注目して、この友人が言いたいことをま

めてみましょう。



「自然を守らなければならぬ」という思いはあるのですが、自分たちが林業でくらししていくためには、シカに木を食べられないようにしなければならぬのですね。答えはエです。

いっしょうけんめい生きてるのは、動物も人間もおなじね。どうすれば自然を守りながらくらししていけるのかしら。



問六 まず、——**あ**をふくむ部分を読みましょう。

いつか**理想郷**をつくろうと、江本さんは少年時代に、霧降高原に開たくにはいりました。
(2〜4行目)

はじめは「開たく地」が理想郷だと考えていたのですね。

さらに、「理想郷」という言葉がほかにないかさがしてみよう。すると、次の部分が見つかります。

ラインを引よう
『エブリスタディ』第4回の問題文の大事なところにラインを引よう。

48〜51行目 理想郷とは開たく地ではなく、ゆたかな自然のあるところだと、考え方をかえたのです。

ここから、今では「ゆたかな自然のあるところ」が理想郷だと考えるようになったことがわかりますね。
「はじめは、今では」という形でまとめましょう。

答え

- 問一** 自然林がたくさん切られた
- 問二** ア
- 問三** 調和
- 問四** 江本さんが山に開たくにはいったことで、動物たちの生活空間をうばってしまったということ。
- 問五** エ
- 問六** はじめは、開たく地が理想郷だと思っていたが、今では、ゆたかな自然のあるところこそが理想郷だと思ふようになった。